平成 22 年度　教育研究調査事業

規範意識を高める学校・家庭・地域の相互連携の在り方に関する研究　報告書

# 思いやりの心をもち，共に生きようとするにしっ子の育成

## ―道徳の授業や体験活動の工夫と家庭・地域との連携を通して―

あま市立甚目寺西小学校　鈴木　文博

### １　はじめに

本校は，昭和 55 年甚目寺町立甚目寺小学校より分離，独立し，開校 31 年目の学校である。現在，学級数 14，児童数 352 名という学校規模である。本校が位置するあま市は，名古屋市中村区の西隣に位置している。平成 22 年３月に，甚目寺町，美和町，七宝町の３町が合併し「あま市」となった。地域には，甚目寺観音をはじめとする文化遺産のほか総合体育館，総合福祉センター，児童館など公共施設にも恵まれ，それらを利用して人々が触れ合う姿がよく見られる。

「モラルの低下」と最近よく耳にする。人の生活は豊かで便利になったが，その一方で個人の自由や権利を主張するあまり，周りの人への思いやりの気持ちが置き去りになってしまった。その結果，人と共によりよく生きるために必要な規範意識が薄れ，これがモラルの低下の要因となっている。子どもたちはそのような社会で生まれ，生活をしている。

私たちが生活する社会は，個人と個人がかかわり合いながら生活を共にするところに成り立っている。それは，「社会生活上のルールを守りマナーを身に付けることが大切である」といった価値観を共有することで，よりよく維持されているのである。本研究では，子どもたちが安心して夢や希望を語り，自分らしく明るく生きる未来を切り拓いていくために，一人一人の規範意識を高め，人としてどう生きるべきかを主体的に考える力を育てる道徳教育の推進について実践した。

### ２　研究の目的

本校の子どもたちを見ていると，分かっているはずの校内のきまりや生活目標が行動に表れてこない場面に出合うことがある。これは，ルールを守ることですがすがしい気持ちになったり，そのような自分に価値を見いだしたりする経験に乏しいためだと考えられる。このような子どもたちの実態から，ルールを与えるだけでは規範意識は育たず，ルールを守り，マナーを身に付けることで自分たちの社会は維持され人としてよりよく生きられる，という真の意味を子どもたちに体得させる必要性があると考えた。自分，友達，周りの人，地域，社会を大切に思う気持ちがなければルールは守れない。だからこそ，多様なかかわりを通して，自他を大切にし，人を優しく思いやる気持ちを育てていくことで，規範意識を高めていきたい。

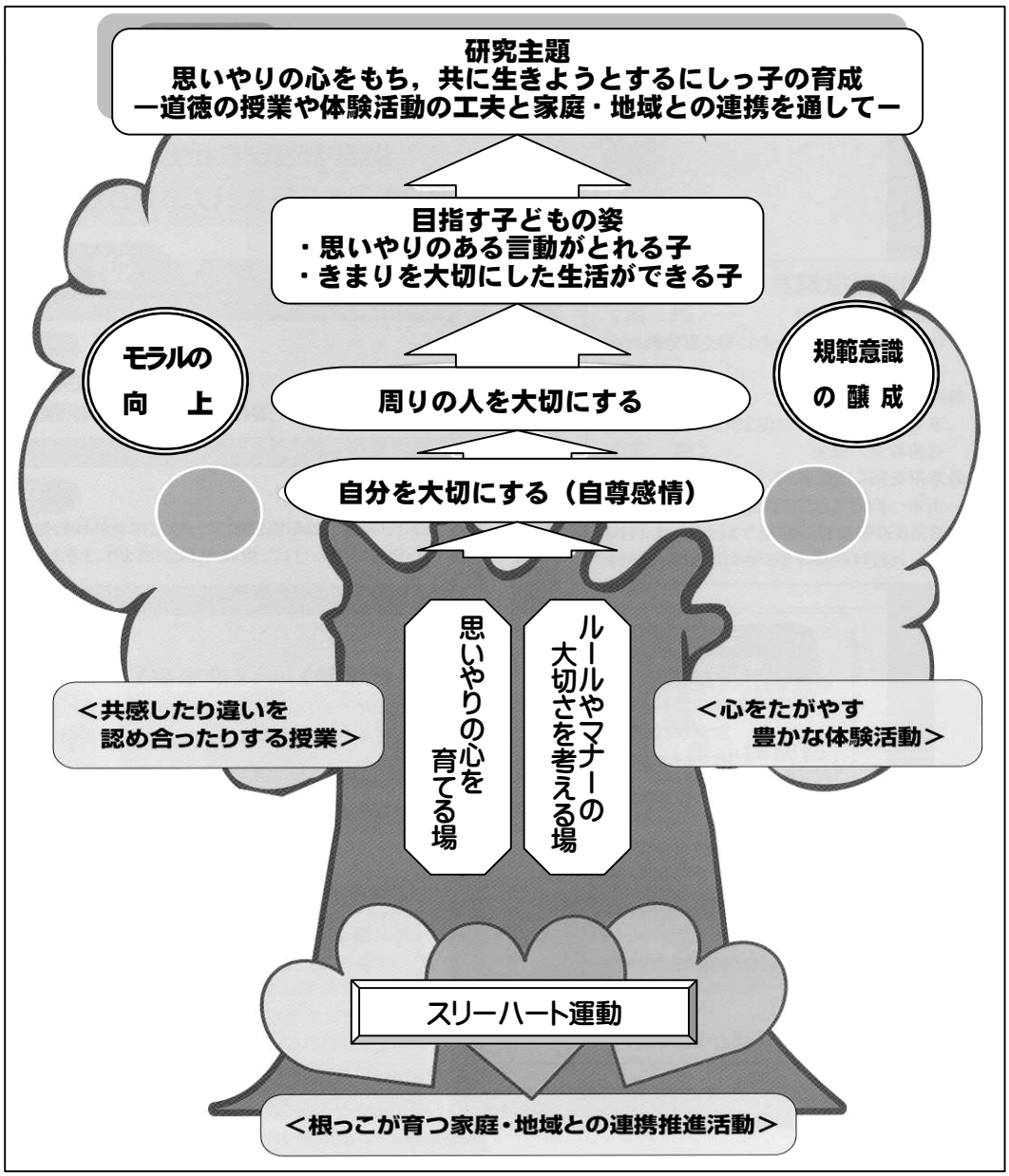
### ３　研究の方法

研究テーマ実現のために，道徳教育を教育活動の中心に据え，道徳の時間に行う「道徳の授業」，他と触れ合うことで今まで気付かなかった自分のよさや友達のよさに気付かせてくれる「体験活動」，家庭・地域と連携して道徳教育を実践する「連携活動」の三つを柱として研究を進める。

そして，「きらりにしっこ」と題して目指す子どもの姿を次のように設定した。

| |
|---|
| きらりにしっこ<br>☆　思いやりのある言動がとれる子<br>☆　きまりを大切にした生活ができる子 |

(1) 研究構想図




(2) 共感したり違いを認め合ったりする道徳の授業の工夫

ア　生活目標や行事，体験活動と関連付けた年間指導計画を作成する。

イ　１時間の授業の組立て方を工夫する。

ウ　伝え合う力を育てる。（話合いのスキルを高める時間を設定する。）

(3) 心をたがやす豊かな体験活動の工夫

ア　異学年交流活動，児童会活動，勤労生産活動の内容を見直し，充実を図る。

イ　日常実践活動を推進する。

(4) 根っこが育つ学校と家庭・地域の三者の連携（スリーハート運動）

ア　道徳授業公開を実施する。

イ　地域清掃（にしっこクリーンキャンペーン）を計画し，実施する。

ウ　あいさつ運動に取り組む。

エ　相互理解を深める啓発活動を推進する。

オ　図書ボランティアと連携した読書活動の充実を図る。

カ　モラル委員会を設置する。

## ４　研究の内容

### (1) 共感したり違いを認め合ったりする授業の工夫

#### ア　年間指導計画の作成

毎年，前年度の反省を基に，資料を見直し，体験活動や地域連携活動との関連を考え，指導計画を作成している。指導内容の系統や発展を表した表や内容項目ごとの一覧表も併せて作り，他学年との関連が分かるように，全学年分を冊子にして活用している。身近に置いて使いやすいように，各学年，学期ごとに１枚にまとめ，資料や道徳プリントを計画的に作ることに役立てている。今年度は新学習指導要領の指導内容に合わせて改訂した。

**年間指導計画の一例（第３学年　１学期　５月）**

| 月 | 主　題　名 | 内 容 項 目 | 心 の ノ ー ト | 体験活動 | 地域連携 | 目標 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | はくぶつかん たんけん | 4-(1)規則尊重，公徳心 | やくそくやきまりを守るから仲良く生活できる | 校外学習 | | 時間を守ろう |
| | 友だち屋 | 3-(2)自然愛・動植物愛護 | 植物も動物もともに生きている | サツマイモの苗植え | | |
| | こわされたタワー | 2-(2)思いやり・親切 | やくそくやきまりを守るから仲良く生活できる | | にしっこクリーンキャンペーン | |

「心のノート」との関連を明記

体験活動，地域連携，生活目標と関連付ける

#### イ　授業の組立て方の工夫

道徳の授業を下図のような組立てで実践している。ポイントを絞って話し合うことで，子どもたちは，自分の気持ちを素直に話し，よりよく生きていくためにはどうするとよいか考えることができるようになってきた。今年度は，子どもたちの考えを深める学び合いに重点を置いて取り組むことにした。また，ゲストティーチャーを招いて，子どもたちの心に思いが響くような工夫もした。

**＜児童の実態＞**
ねらいとの関連で実態を把握する。

| | | |
|---|---|---|
| 導入 | **気付く** | ○ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。 |
| 展開前段 | **深める** | ○資料提示<br>○資料の内容に浸り，登場人物の気持ちを考えさせることにより，道徳的価値を追求し把握させる。 |
| 展開後段 | **見つめる** | ○把握した道徳的価値に関して，自分の経験を思い起こし自分を見つめ，思いを書き，他の児童との |

・資料への興味，動機付け
・ねらいとする価値への意識付け
・地域の人材（ゲストティーチャー）の活用

**＜場面の焦点化＞**
資料の内容を話の筋に従って順に進めていくのではなく，中心となる部分に絞って話し合う場面を設定する。
**＜切り込み発問＞→葛藤させ，心ゆさぶる発問**
中心発問の効果を高めるために，その前段階で，葛藤させ，心をゆさぶる発問を考える。
**＜中心発問＞→価値をより確かにさせる発問**
資料の内容に浸り，価値に迫る話合いをするために，まず中心発問を設定する。この時，話合いの核となるような文章・言葉（キーワード）・場面絵などをとらえて発問を考える。

| | | |
|---|---|---|
| | | 違いに気付く。 |
| 終末 | ひびく | ねらいとする価値を子どもたちの心にひびかせるようにまとめる。 |

＜「道徳プリント」＞の活用
①深める段階
中心発問を受け，登場人物の気持ちを想像して書く。
②見つめる段階
自分の経験を思い起こし，自分を見つめた思いを書く。

＜本時のねらい＞
ねらいとする道徳的価値を焦点化し，
道徳的心情，判断力，意欲・態度を養う。

・ゲストティーチャーの活用
・心のノートの活用
・詩，新聞記事，手紙などの活用

**ウ　授業実践（体験活動とのかかわりを考えた道徳の授業）**

**(ｱ) ２年生「ぼくは二年生」（「明るい心」　２－（２）思いやり・親切）**

生活の中でよりよい人間関係を築くには，思いやりの心が不可欠である。そのためには，低学年のうちから身近な人に温かい心で接し，親切にする体験が必要である。２年生になって１か月半ではあるが「１年生おめでとう集会」「にしっこたんけん」「遠足」などの活動や学習を通して１年生と触れ合う機会があった。その様子を見ていると，優しく声を掛け楽しそうに過ごしていた。しかし，「２年生同士で遊びたい」などの声も聞かれた。主人公の様子に共感させ，思いやりの心の大切さに気付かせたい。さらに，触れ合う体験を重ねることで，よりよいかかわり方に気付き，思いやりの心を育てたい。

**気付く**

２年生になり，集会や生活科の学習を通して１年生と触れ合う機会があった。それらの写真を見て，どんな様子だったかを思い出すことで，触れ合いを通して得られた体験を，ねらいとする価値につなぐことができた。

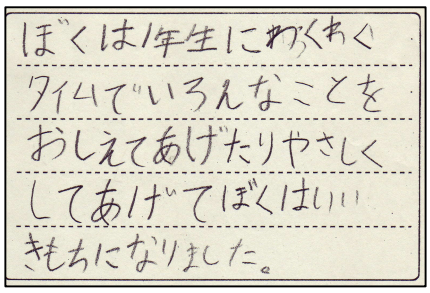
**深める**

主人公が，１年生の女の子に思いやりをもって接する態度や女の子にお礼を言われたことに喜びを感じている様子に共感させることで，主人公の気持ちの変化を感じ取らせることができた。さらに，２年生としてしなくてはならないことを理解することができ，これからの自分の行動につなげたいという思いをもつことができた。

**【ゲストティーチャーより】**

**見つめる**

ここでは，困っている子や友達にしてあげてよかったことを思い出した。友達の発表を聞くことで，弟や妹，さらに，おばあさんなどへの思いやりにも触れることができた。また，学び合いをすることで，今まで気付いていなかった人を思いやる心にも目を向けることができた。




**【振り返りカード】**

**ひびく**

１年生の教師をゲストティーチャーとして迎え，１年生の子が２年生との活動や学習の中で，どんなことを思っているかを話してもらうことで２年生としての自覚をもち，次の体験でも思いやりをもって生活しようとする気持ちをもつことができた。当日行われた異学年交流活動の「わくわくタイム＆

にこにこランチ」で，学んだことをすぐ体験活動に生かすことができ，振り返りカードには，実践できたことを書いていた。

### (ｲ) ５年生の実践 「ナイスシュート」 （「明るい心」 ２－(３)信頼・友情，男女の協力）

子どもたちは５年生になり，学級活動だけでなく，高学年としての自覚をもって異学年交流にも積極的にかかわっている。しかし，思春期にさしかかるこの時期に，素直に男女で仲良く活動することができないときもある。

そこで，道徳の時間の中で，男女が協力して仲良く生活することの素晴らしさを感じ取らせ，互いに尊敬し合える人間関係を築き，５年生の大きな体験活動の一つである野外活動を，よりよいものにしていく気持ちを高めたいと考えた。

【道徳プリントに記述する子ども】

**気付く**

ペープサートを使って簡単な劇を行い，同じような気持ちになったことはないかを話し合わせ，ねらいとする価値への方向付けを図った。

**深める**

まず，主人公の気持ちに寄り添わせ，集会に向けてのバスケットボールの練習試合に勝てないのは男子が悪いからと考えている主人公に共感させることができた。さらに，主人公の心の変化である「さわやかな気分」という言葉をキーワードとして考えさせたことにより，より多くの意見を引き出し，価値を高めることができた。また，男子と心が通い合い，試合後，さわやかな気持ちになった主人公の心情を考えることにより，男女が協力することの素晴らしさに気付くことができた。

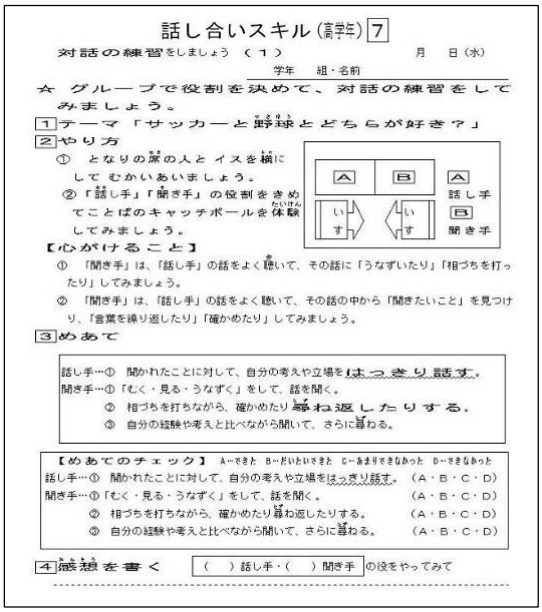
【道徳プリントの例】

**見つめる**

毎日の生活を振り返り，男女で協力しながら活動する素晴らしさを感じ取らせることができた。また，友達の意見を聞き，学び合うことでつかんだ価値を今後の野外活動に生かしていこうという気持ちにつながった。そして，野外活動に向けて期待感をもつことができた。

**ひびく**

昨年度，野外活動で引率した教師をゲストティーチャーとして迎え，野外活動で行う飯ごう炊さんは，男女が協力して作業を行うと早く上手にすることができることを聞き，野外活動での協力の大切さを具体的に感じ取ることができた。




【話合いスキルのプリント例】

**ひびく**

昨年度，野外活動で引率した教師をゲストティーチャーとして迎え，野外活動で行う飯ごう炊さんは，男女が協力して作業を行うと早く上手にすることができることを聞き，野外活動での協力の大切さを具体的に感じ取ることができた。

### エ 伝え合う力の育成（話合いのスキルを高める時間の設定）

道徳の授業で「共感したり違いを認め合ったり」するためには，子どもたち一人一人の伝え合う力を育てなければ

ならない。そこで，毎週火曜日の業前に５分間「話合いスキル」の時間を設定した。話合いの技能を鍛える場として位置付け，「話し手」と「聞き手」の両面から，ねらいをもって取り組めるように，低・中・高学年別に内容を工夫した。

### (2)　心をたがやす豊かな体験活動の工夫

体験活動は，今まで気付かなかった自分のよさや友達のよさに気付かせてくれる大切な場である。人とのつながりの大切さを体得させ，周りの人の気持ちを考えて行動できる優しい気持ち，思いやりの心を育てることが規範意識を高めることにつながっていくと考え，実体験を中心とした活動を進めた。

#### ア　異学年交流活動（わくわく活動）

子どもたちの主体的な活動を目指し，また，児童相互のつながりを深め，学校生活をより楽しく豊なものにすることをねらいとした異学年交流活動を推進している。

推進に当たっては，低学年が高学年を慕い，また，高学年が低学年を思いやるなどの心の交流を深めることができるような異学年ならではの実体験の場を設定していく。そして，人とのかかわりの中で，人のために尽くす喜びを感じることや，自分にできることは進んでしようとする心の動きを大切にしながら，活動を進めていく。その体験を通して，自他を大切にする気持ちをはぐくみ，自分たちで考えた活動を推進する実践力を養い，いつも明るく笑顔で過ごす，優しく思いやりのある「にしっこ」の育成を目指す。

【わくわくタイム】

全校児童を縦割り 12 班（各班約 30 名）に分け，各班に６年生リーダー１名，５年生サブリーダー１名を置く。高学年がリーダーシップをとることができるよう，体制（話合いの場の確保，リーダー会の設置，リーダー養成講座の開催）を整えていく。また，活動全体を「わくわく活動」と名付け，より子どもたちが親しみをもてるように配慮した。

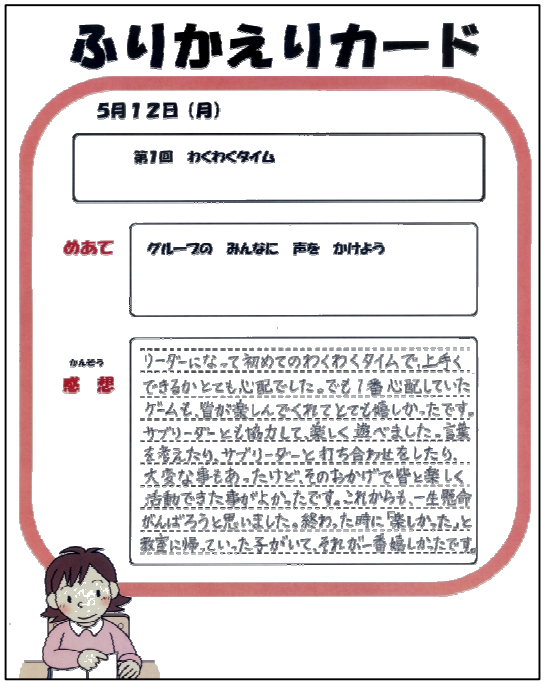
主な体験の場として，次のような活動を計画している。

・わくわくタイム（遊びやゲーム，創作活動，読み聞かせなど）
・わくわくタイム＆にこにこランチ（遊びやゲーム等と昼食）
・全校集会（入学おめでとう集会，収穫祭，６年生を送る会）
・スポーツフェスティバル
・芋の栽培（１班１畝の芋の畑の世話を担う。）

活動に当たっては，昨年度までの活動を継続することを基本方針として，内容の見直しと充実を図っていく。計画を実践するに当たっては，

目　標⇒啓　発⇒活動・体験⇒振り返り⇒学び合い

という流れで活動を進めている。



ふりかえりカード

5月12日（月）

第1回　わくわくタイム

めあて　グループの　みんなに　声を　かけよう

かんそう
感　想　リーダーになって初めてのわくわくタイムでしっかりできるかとても心配でした。でも１番心配していたゲームも、皆が楽しんでくれてとても嬉しかったです。サブリーダーとも協力して楽しく遊べました。言葉を考えたり、サブリーダーと打ち合わせをしたり、大変な事もあったけど、そのおかげで皆と楽しく活動できた事がよかったです。これからも一生懸命がんばろうと思いました。終わった時に「楽しかった」と教室に帰っていった子がいて、それが一番嬉しかったです。

【児童の振り返りカード】

振り返りと学び合いの場を設定し，子どもたちの変容を探っていく。振り返りの時間では，各自が振り返りカードに自分の活動に対する感想や反省，また，活動の中で学んだことなどを記述する。その後，各クラスで学び合いの時間をもち，その時間に各自の振り返りを発表し合い，話合いをする。そうした交流の中で，自分自身の頑張りや，仲間のよさに気付かせ，互いに認め合い，高め合うことを目指している。

また，他の「学び」を実際に知ることで，班の中でさらに自分は何ができるかを考えさせたり，次の活動への意欲を促したりできると考えている。振り返りカードは「にしっこファイル」として記録を残し，自分自身の成長の証として認めていくことで，自尊感情を高めていくことにつなげていった。

**(ｱ) わくわくタイム**

縦割りの班を単位として，遊びやゲーム，創作活動，読み聞かせなどを行う時間を「わくわくタイム」と名付け，活動を進めている。１年間を通しての活動計画を立て，各学期の初めに実施計画を提示する。

【にこにこランチ】

１学期の初めには，発足会をもち，自己紹介や班の目当てを話し合う中で，交流への期待感をもたせる。遊びやゲームは各班のリーダーが中心となり，どんなことを実施するのかを立案するなど，自主性を尊重した運営を行う。毎週水曜日２時限後の休み時間を「わくわくデー」と名付け，各班が考えた遊び（鬼ごっこ，長縄，ボール遊びなど）を行っている。学期に１回は，４時限目をわくわくタイムとし，その後，各班で選んだ場所で持参した弁当を食べる「にこにこランチ」を設けている。

交流を重ねることで，高学年は主体的な活動運営がスムーズにできるようになり，低学年への思いやりのある言動もみられるようになってきている。また，低学年は遊びやゲームのルールをきちんと守り，高学年との心の触れ合いを喜びとしている様子がうかがえ，生き生きと活動する姿が見られる。

こうした年間を通しての活動を推進することで，様々な集会やスポーツフェスティバルも異学年交流で運営できる力を育成できるものと考える。

**(ｲ) リーダー会**

わくわく活動の運営の中心として，様々な活動の企画や進行，低学年の世話などを担う。各班のリーダ　ー（６年），サブリーダー（５年）各１名ずつ，12 班 24 名で構成する。活動実施日の前後に開催し，活動内容の考案，準備，進行等の話合いの場とする。各々の意見や考えを出し合うことで，活動もより主体的なものとなり，盛り上げていこうとする共通意識も高めることができると思われる。また，朝礼時や校内放送などによる活動の目当てや活動内容の紹介などの啓発活動もリーダーが担っている。それにより，さらにリーダーとしての自覚がもてるよう願っている。

**(ｳ) リーダー養成講座**

リーダー・サブリーダーだけでなく，高学年全員が自信をもって協力し合いながら，低学年の世話をしたり，わくわく班の活動を推進したりできるようにすることを目的とし，年間２回の講座を開設した。

【リーダー養成講座】

高学年がもつべき心構えとして，

①率先して行動する（どんなことも楽しむ）
②低学年への心配りをする（相手の立場に立って）
③小さなことにこだわらないおおらかな雰囲気づくりをする
　　（ミスをした人，遅い人にも優しく）

以上，大きく三点について，その大切さを学ぶ会とした。高学年の一人一人が，リーダーとしての自覚を高め，資質の向上に向けての有意義な試みとなるよう，第１回の講座では，講義だけではなく「みんなで楽しめるゲーム」体験も取り入れた。第２回の講座では，第１回で学んだことを基に，１・２年

「簡単カメラ」３・４年「びっくり六角」の創作活動（紙工作）のための講習会という形をとった。教頭を講師とし，工作を教えるときのこつや作り方などを学んだ。「こんな時はこんな声かけをするといいよ」など，相手の立場に立った具体的で，適切なアドバイスの仕方を学ぶよい場となった。

**(ｴ) スポーツフェスティバル**

９月下旬に実施しているスポーツフェスティバルを「子どもたちの子どもたちによる会」と位置付け，実施している。

縦割りの班 12 班を２班ずつ合同チームとし，赤，白，黄，緑，青，橙の６色対抗とする。運動する楽しさや喜びを十分に味わうことはもとより，子どもたちの主体的，創造的な活動の仕方を大切にし，４年生以上は一人一役を担い，応援，決勝審判，得点などの係を受け持つ。また，競争遊技の種目も各チームで考案し，準備や進行も子どもたちの手によって行う。準備運動，整理運動も運動委員会が考案している。全体の進行も児童会の役員が担うこととする。当日を迎えるに当たっては綿密な計画と時間が必要である。しかし，高学年がリーダーシップを発揮して応援合戦を行ったり，だれもが喜んでくれる種目を考えたり，係の仕事もスムーズに進めることができるようになったりしたのは，本校が数年間積み上げてきた異学年交流活動の成果であると考えている。そこでは，互いに協力し合って助け合う姿が見られ，自分たちで創り上げたスポーツフェスティバルならではの喜びを体得できたものと思われる。

**【スポーツフェスティバル】**

当日は，地域の方々を招き，子どもたちの生き生きとした活動の様子を見ていただき，温かい交流の場がもてた。

**イ　児童会・委員会による全校集会活動（君がいてくれてうれしい集会）**

児童会役員と図書委員が運営委員となり，「みんなちがってみんないい」をテーマに全校集会を企画した。７月の集会に向けて，５月の半ばから目当てや内容などを検討し，協力して主体的に話合いを進めてきた。

運営委員は，人とかかわることのよさや大切さを伝えていくことを目指して，集会の目標を，

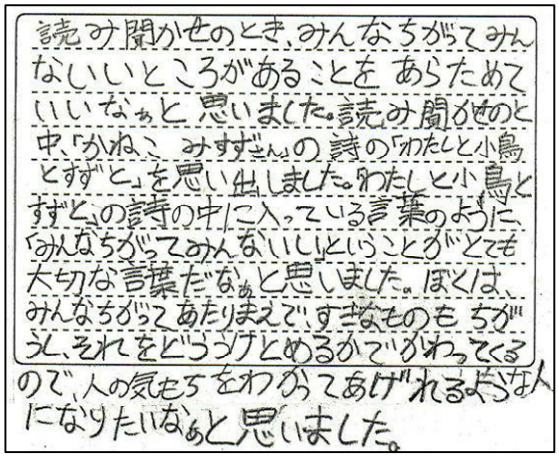
- 読み聞かせやゲームなどを通して，相手のよいところを認め合おう
- 周りの人のことを思いやって行動しよう

と決め，「君がいてくれてうれしい集会」という名前にした。

また，人権について考える「本の読み聞かせ」や思いやりについて考える「君がいてくれてほっとタイム」（詩の朗読），友達と触れ合う「仲間を集めようゲーム」を計画した。

集会後，自分なりに気付いたことや感じたことを振り返りカードに記入することにより，思いを温め，自分の生活に結び付けて考えることができた。また，振り返りカード

**【君がいてくれてうれしい集会】**



読み聞かせのとき，みんなちがってみんないいところがあることをあらためていいなぁと思いました。読み聞かせの中，「かねこ　みすず さん」の詩の「わたしと小鳥とすずと」を思い出しました。わたしと小鳥とすずと，の詩の中に入っている言葉のように，「みんなちがってみんないい」ということがとても大切な言葉だなぁと思いました。ぼくは，みんなちがってあたりまえで，すきなものもちがう，それをどうつけとめるかでかわってくるので，人の気もちをわかってあげれるようなになりたいなぁと思いました。

**【振り返りカード（４年生）】**

を道徳コーナーに掲示したり，放送で紹介したりして学び合いの場を広げた。

**ウ　日常実践活動（児童委員会）**

モラル向上につながる日常実践活動の推進を目指し，子どもたちの手による「児童委員会」の在り方を探ってきた。

- みんなが気持ちよく，そして仲良く過ごすためには何が必要なのかを話し合い，具体的に働き掛ける取組を考え，実践する。
- 子どもたち自身が生活を見直し，改善すべきことは何なのかを考え，話し合う。

以上のことを基本的理念とし，朝礼時を利用したミニ集会での全校への呼び掛け，キャンペーン活動，各クラスを訪問しての呼び掛けや集会の企画など，各委員会が様々な活動を進めてきた。

その中で，生活委員会は「きらりにしっこ」を紹介する活動を定期的に行っている。「きらりにしっこ」は全校児童の目標となり，子どもたちは「きらりにしっこになりたい」と思い，努力するようになってきた。

**「きらりにしっこ」に選ばれた子どもの声**

生活委員の人から，「トイレのスリッパをきれいにそろえていた〇〇さん」とわたしの名前が呼ばれたとき，びっくりしたけどとてもうれしかったです。これからも，きまりを守って生活しようと思いました。（３年女子）

**【きらりにしっこの紹介】**

こうした取組を続けたことにより，「きまりや約束を守る」そんな当たり前のことがきちんとできることが，気持ちよく生活するためには必要なことであり，そして，そのことが，周りへの思いやりの心につながっていることを子どもたちは理解してきている。きまりやマナーをきちんと守る自分自身に価値を見いだし，さらに自分を磨いていこうとする意識の高まりもみられるようになってきた。

**(3) 根っこが育つ家庭・地域との連携推進活動**

子どもたちの規範意識を高め，モラルを向上させるためには，地域社会が道徳教育に果たす役割を十分に認識し，学校が家庭・地域と連携し，地域全体で子どもたちの心に響く道徳教育を展開していくことが大切である。そこで，学校・家庭・地域が一体となって，ゆるぎない心の根っこを育てる活動「スリーハート運動」を推進していくことにした。

**ア　道徳授業公開**

新学習指導要領の指導計画の作成と内容の取扱いには「道徳の授業を公開したり，家族学級等で全学級道徳の授業をしたり，授業の実施や地域教材の開発や活動などに，保護者や地域の人々の積極的な参加や協力を得たりするなど，家庭や地域社会との共通理解を深め，相互の連携を図るよう配慮する必要がある」と述べられている。

本校では，家族学級のときなどに，全学級で道徳の授業を公開している。そこでは，道徳教育の要である道徳の時間の授業をどのようなねらいや内容，方法で展開しているか，また，子どもたちの考え方等を保護者・地域に対して，広く情報発信する機会としている。そして，授業参観後の学級懇談会において，道徳について，担任と保護者が意見を交換するようにしている。

**【家族学級のときの各学級の道徳の授業内容】**

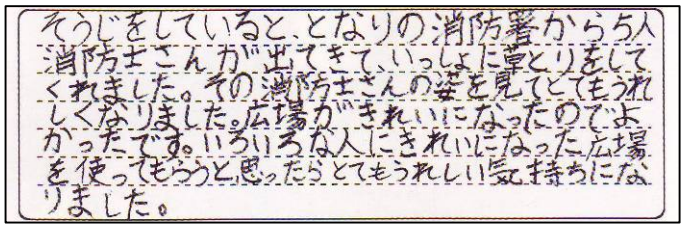
| 学級名 | 主題名 | 内容項目 |
|---|---|---|
| １年１組 | せいりせいとん | １－（１）節度，自制，自立 |

| | | |
|---|---|---|
| １年２組 | はしのうえのおおかみ | ２－（２）思いやり・親切 |
| ２年１組 | たんじょう日 | ３－（１）生命の尊重 |
| ２年２組 | ぼくは二年生 | ２－（２）思いやり・親切 |
| ３年１組 | 友だち屋 | ２－（３）信頼・友情 |
| ３年２組 | なかよしだから | ２－（３）信頼・友情 |
| ４年１組 | 高橋尚子選手の走ってきた道 | １－（３）不とう不屈，努力 |
| ４年２組 | ぼくの部屋 | １－（１）自立・節度 |
| ５年１組 | 宿題はありがとう | ２－（１）礼儀 |
| ５年２組 | キャプテン | １－（２）希望・勇気・努力 |
| ６年１組 | ぼくの仕事は便所そうじ | ４－（４）勤労・社会奉仕 |
| ６年２組 | どうすればいいの | ４－（１）社会的役割の自覚と責任 |
| ひまわり１ | かぼちゃのつる | １－（１）節度，自制，自立 |
| ひまわり２ | おばあちゃんのみかん | ４－（３）家族愛 |

**イ　地域清掃（にしっこクリーンキャンペーン）**

子どもたちが地域の人々と触れ合い，共に地域社会に貢献することで，進んで地域の人々のために役立つ喜びを体感させるとともに，地域の道徳力を学校教育に生かすことができるのではないかと考えた。そこで，わくわく班ごとに保護者や地域の人と一緒に，学校周辺の道路や公園などを清掃した。事前準備として，わくわく班でごみの多い場所や状況などについて話し合い，清掃区域を決定したり，低学年に配慮して清掃の役割分担を話し合ったりした。また，道徳通信などを通して，地域の人へも参加を呼び掛け，保護者をはじめ多くの方に参加していただき，交流を図るようにした。地域の人と共に清掃をすることで，子どもたちに地域の一員としての自覚をもたせ，協力することの素晴らしさを体得させることができたと考えている。また，様々な人とかかわり，協調する心や人への感謝の心，思いやりの心などがはぐくまれたと言える。

**【にしっこクリーンキャンペーン】**


そうじをしていると、となりの消防署から5人消防士さんが出てきて、いっしょに草とりをしてくれました。その消防士さんの姿を見てとてもうれしくなりました。広場がきれいになったのでよかったです。いろいろな人にきれいになった広場を使ってもらうと思ったらとてもうれしい気持ちになりました。

**【振り返りカードより】**

**ウ　あいさつ運動**

本校では，地域の人にも進んであいさつしようと「さきがけあいさつ」を励行している。あいさつは，生活の基本である。児童会の活動としては，毎月第１週を「あいさつ運動週間」とし，登校時に児童会役員が中心となってあいさつを呼び掛けている。生活委員会の児童も朝礼などで積極的に働き掛け，あいさつへの意欲化を図ることができた。学級委員や各委員会の委員長なども自主的に参加するようになり，児童相互の心の交流の高まりがみられるようになってきている。

**【あいさつ運動】**

また，保護者や地域のボランティアで結成されている「にしっこを見守り隊」の人たちも，あいさつ

運動に参加してもらっている。その中で，あいさつができるようになってきたという話を聞くことも多くなってきた。

### エ　相互理解を深める啓発活動

#### (ｱ)　スリーハート運動の親子標語作成

学校・家庭・地域が協力し合ってモラル向上を図る「スリーハート運動」への関心を高めるため，夏休みに親子で一緒にスリーハート運動の標語を作成した。たくさんの応募の中から「あいさつ」「清掃と美化」「地域」に関する標語を３点選び，学校や地域に掲示し，地域のモラル向上の啓発活動を行っている。

**【選ばれた親子標語】**

あいさつは　みんなの心　ひらくカギ
ごみ拾う　一人一人の　町づくり
助け合う　地域のみんなが　大きな家族

**【スリーハートキャンペーン活動】**

**【消防署に掲示】**

掲示活動は児童会役員と６年生児童が中心になって行い，公共施設や地域の店など掲示してほしいところを話し合い，依頼に行った。標語は建物の入り口などに掲示してもらい，子どもたちだけでなく，地域の人にもモラル向上を呼び掛けている。

ほかに，スリーハートキャンペーン活動として，親子標語の入ったティッシュを甚目寺駅やスーパーマーケットで地域の人に配り，地域のモラル向上を呼び掛けることも行った。

#### (ｲ)　道徳通信「スリーハート」の発行

地域全体で子どもたちの道徳性を培うため，三者が互いに情報を共有し，地域の道徳教育推進活動を啓発することをねらいとして，月１回道徳通信を発行している。道徳通信などを通して，道徳教育の意義やねらい，児童の実態や活動の様子を紹介することで，家庭や地域の人々の理解を深められると考えている。また，学校からの一方通行にならないように，保護者や地域の人々の考え等を掲載して交流を図り，子どもたちのモラル向上について，共に考えてもらうように啓発している。

**「スリーハート」に対する地域の人の声**

毎月，スリーハートを楽しみにしています。学校の行事や活動のことがよく分かり，とてもよいと思います。写真がカラーなので，子どもたちの様子もよく伝わってきます。これからは，地域の声をもっとのせてもらえるといいかもしれませんね。

**【道徳通信「スリーハート」】**

### オ　図書ボランティアと連携した読書活動の充実

本校では，保護者を中心とした地域の人が図書ボランティアとして，読み聞かせや図書館の整備などの活動を行っている。本を通じて，子どもたちの想像力を伸ばし，豊かな心をはぐくむとともに，地域の人が子どもたちと触れ合い，共感できる時間をつくりたいと考えている。毎月２回，「朝の読書タイム」の時間に行われる読み聞かせも，活動が積極的になり，読み聞かせる本も，ねらいに応じて伝えたい思いのはっきりしたものが選ばれるようになってきた。今年度は人権にかかわる内容の本を多く読み

聞かせてもらっている。また，本を通して一緒に感動したり共感したりすることによって，心の交流を図るとともに豊かな心を培うことをねらいとして，２学期の学校公開日には親子読書を実施した。各教室で人権にかかわる内容の読み聞かせを行った後，通学団ごとに分かれて親子で一緒に読書をした。

【図書ボランティアによる読み聞かせ】

**カ　モラル委員会の設置**

学校・家庭・地域の三者が一体となったモラル向上・規範意識醸成のためにモラル委員会を設置した。教職員，児童，保護者，地域の代表で構成し，学期に１回開催する。道徳教育のねらいや児童の活動について報告をした後，今後の地域連携活動の進め方について話合いをもつ。意見を交換することで，道徳教育についての関心・理解を深めるとともに，保護者や地域の人の思いや願いを理解し，その意見を反映させることで開かれた道徳教育を推進し，教育活動の成果が高められると考えている。

【モラル委員会の様子】

平成 21 年度第３回モラル委員会（平成 22 年２月４日実施）では，次のようなことが話し合われた。内容は，あいさつのことが中心に意見交換が行われた。

○　学校より

道徳の授業を教師が共有して進めてきた。また，話合い活動を中心に取り組んできた。体験活動では，異学年交流を中心に進めてきた。新しい親子標語の作成を行い，地域との連携を行った。

○　児童より

児童会では，「さきがけあいさつ」の運動に取り組んだ。わくわく活動を通して，思いやりの心をみんながもってくれると思う。

生活委員会では，「ありがとう運動」を行ったり，廊下を静かに歩くために「歩こうあなたから」といったキャンペーン活動を実施した。

○　保護者より

親子読書はよい取組だが，会の進行に一工夫ほしい。

通学団のみんなといると，あいさつできるが一人一人になると言わないときがある。

親としても，知っている子にはあいさつできるが知らない子にはなかなかあいさつできない。

○　地域の人より

あいさつを家の中でしているか。まずは，そこが大切である。

自分の家の近くの子は，元気にあいさつしてくれてうれしい。

西小の児童はよくがんばっている。楽しいことばかりでないので，つらいことも乗り越えてほしい。

地域としても，「さきがけあいさつ」に協力していきたい。

## ５　研究のまとめと今後の課題

### (1) 成果

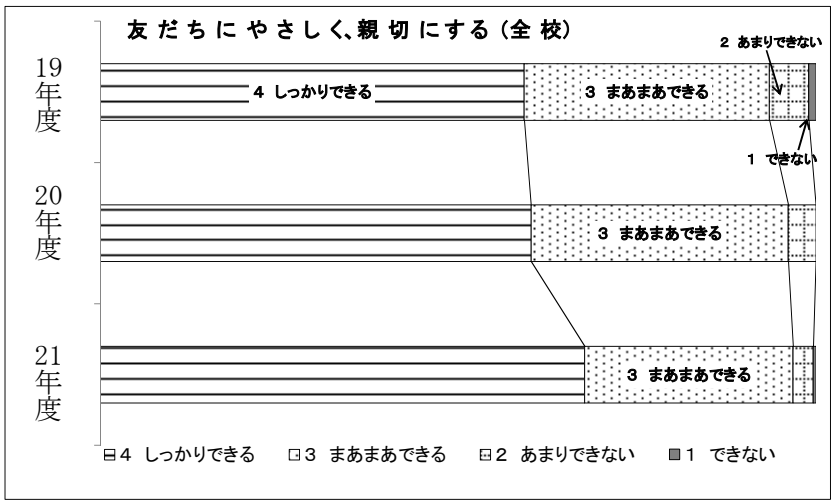
これまでの研究を通して，子どもたちは，確実に成長してきている。これらの子どもの意識の変容や成長の様子は，「明るいにしっこアンケート」の結果からも読み取ることができる。

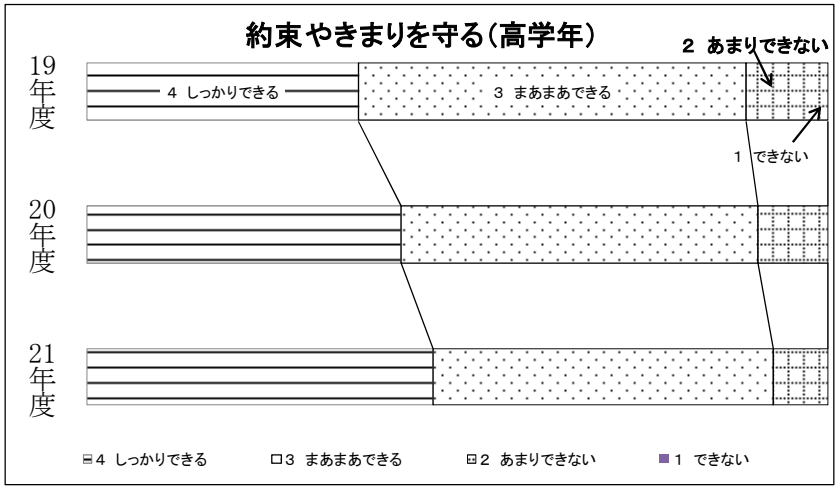
道徳の授業を工夫し，「学び合い」を大切にしてきたことによって，子どもたちは，友達がもってい

る様々な思いや考えを認め合い，自己を深く見つめることができるようになってきた。そして，よりよく生きていこうとする気持ちを高め，実践力へとつなげることができた。

心に触れる様々な体験を通して，高学年は低学年に自然に手を差し伸べ，低学年は高学年にあこがれ，自分もそうなりたいと願うなど，子どもたちが互いを大切にし，優しく思いやる場面を目にすることが多くなっている。何より，子ども自身が体験活動に主体的にかかわったり，楽しく参加したりするようになったことは，成長の一つとしてとらえることができる。

【明るいにしっこ：習慣や行為の変容　抜粋】




さらに，高学年の子どもたちについてみると，「約束やきまりを守る」という意識が高まり，規範意識が少しずつ育ってきている。これは，約束やきまりの大切さに子ども自身が気付き，実行していこうとする気持ちが内面化してきていることの表れである。それが日々の生活での実践に結び付き，チャイムに合わせて行動したり静かに掃除に取り組んだりすることができるようになってきている。

家庭，地域との連携活動の推進によって，これまで以上に多くの協力が得られるようになり，子どもたちを見守る地域の目がより温かいものになってきている。このことにより，子どもたちは，自分たちは地域に守られている，自分たちも地域の一員であると実感できるようになった。そこからさらに，自分も地域のために何かをしたいという声が聞かれるようにまでなってきている。様々な場面での家庭や地域との連携は，子どもたちが安心して生活し，成長していくための支えになっていると言える。

### (2)　課題

振り返りや学び合いを大切にした体験活動を繰り返すことで，子どもたちは，得たことを次の同様な体験活動に生かすことができた。さらに，子どもたちが自己成長しようとするエネルギーにつながるように，心の動きと響き合う「学び合い」ができる体験活動の工夫を積み重ねていきたい。

また，活動を計画するときに，子どもを中心に据えて，道徳の時間，体験活動，地域との連携活動がさらに深くかかわり合うことができるような内容や支援の在り方を工夫していくことも大切である。今後もあらゆる場面で継続して子どもたちに働きかけ，子どもたちの心の成長していく過程や道徳的実践力を身に付けていく過程を見守っていきたい。

特に，家庭・地域との連携では，地域からの声をもっと吸い上げることができるようなシステムを構築し，相互連携を図っていかなければならない。

# 道徳教育全体計画

あま市立甚目寺西小学校

日本国憲法　教育基本法
学校教育法　学校教育法施行規則
学習指導要領　等

## 教育関係指針

○心に響く道徳教育
　体験活動を生かした心に響く道徳教育の実施
○開かれた道徳教育
　家庭や地域の人々の協力による開かれた道徳教育の充実
○未来を拓く道徳教育
　未来へ向けて自らが課題に取り組み，共に考える道徳教育
[愛知県教育委員会　教員研修の手引き]より

## 学校教育目標

　校訓「明るく　やりぬく　たくましい子」の下，児童一人一人のすぐれた個性を伸ばし，心身ともに健やかで，知・徳・体の調和のとれた人間形成を図り規則や規範を大切にし，共に生きようとする児童を育成する。

(に)こにこ笑顔で生活する子
(し)んけんに学び合う子
(つ)よい心と体をもった子
(こ)ころの豊かな子

○児童の実態
・子どもらしく素直である。
・異学年の交流が深まりつつある。
・言われたことはできるが，主体性に欠ける。
・分かっているはずのきまりが守れないことがある。
○保護者・地域の実態
・全体的に協力的であるが，価値観の多様化による問題が起こることがある。
・「人権のまち」として人権教育に取り組んでいる。

## 道徳教育の目標

思いやりの心をもち，共に生きようとする児童の育成
・相手の立場に立って考え，思いやりのある言動がとれる心を育てる。
・自分を大切にし，よりよく生活しようとする態度を養う。
・きまりを守ることの大切さが分かり，落ち着いて生活する態度を養う。

**目指す子どもの姿　「きらりにしっこ」**
○思いやりのある言動がとれる子　○きまりを大切にした生活ができる子

## 低･中･高学年別目標

| 低学年 | 中学年 | 高学年 |
|---|---|---|
| 約束やきまりをきちんと守り，なかよく落ち着いて生活する。 | 人とのかかわりを通して，思いやりのある温かい心をもち，協力し合って生活する。 | 自分を支えてくれるものに感謝の気持ちをもち，よりよく生活するために進んで行動する。 |

## 研究内容

| 授業研究部会 | 体験活動研究部会 | 連携推進研究部会 |
|---|---|---|
| 道徳の時間の「授業」において，共感したり違いを認め合ったりする話合い活動を通して，自己を見つめ道徳的価値を自覚することで実践力を育てる。<br>○ 生活目標や行事，体験活動と関連付けた年間指導計画の作成<br>○ 授業の組立て方の工夫<br>○ 読み物資料の発掘 | 体験活動を通して，人とのつながりの大切さを体得し，自他を大切にした行動ができる優しい気持ちや思いやりの心を育てる。<br>○ 異学年交流活動の充実<br>○ 日常実践活動の推進<br>○ 主体的に生きる力をはぐくむ体験活動の工夫<br>○ 児童委員会の取組 | 家庭・地域と連携し，体験活動や対話，広報活動を通して，地域全体で子どもたちの心に響く道徳教育を推進する。<br>○ モラル委員会の設置<br>○ 対話集会や地域清掃などの計画・実施<br>○ 地域の発信（道徳通信「スリーハート」の発行）<br>○ 道徳授業公開 |

## 各教科における道徳教育

　各教科の指導目標の達成を目ざす中で，道徳教育との関連をふまえ，道徳的心情を豊かにし，道徳的判断力を養い，道徳性にかかわる実践的態度を養う。

| | |
|---|---|
| 国語 | ・互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う力を高め，豊かな心情を育てる。<br>・思考力や想像力及び言語感覚を養い，我が国の伝統と文化を尊重する態度を育てる。 |
| 社会 | ・我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てる。<br>・国際社会の一員としての役割を果たそうとする態度を養う。 |
| 算数 | ・日常の事象に見通しをもち，筋道を立てて考え表現する能力を育てる。<br>・目的意識を持って主体的に取り組む態度を育てる。 |
| 理科 | ・栽培や飼育などの体験活動を通して自然を愛する心情を育てる。<br>・自然環境と人間との共生の手だてを考えながら自然を見直し，生命を尊重しようとする態度を養う。 |
| 生活 | ・自分のよさや可能性に気付き，それらを育てようとする心情を育てる。<br>・健康や安全，生活上のきまり，言葉遣いや振る舞いなど生活上必要な習慣を身に付ける。 |
| 音楽 | ・音楽を愛好する心情や感性を育て，豊かな情操を養う。<br>・我が国の伝統や文化，自然や四季の美しさや夢や希望をもって生きることの大切さなどの心情を育てる。 |
| 図工 | ・子供自身の「感性」を働かせながら，よりよいものを目指そうとする態度を育てる。<br>・美術作品を鑑賞することにより，郷土や我が国の伝統と文化を大切にする態度を育てる。 |
| 家庭 | ・生活習慣の大切さを知り，自分の生活を見直そうとする態度を育てる。<br>・家庭生活を大切にする心情をはぐくむ。 |
| 体育 | ・友達との協力や公正な態度，安全への配慮などの態度を育てる。<br>・生活習慣の大切さや自他の生命を尊重する態度を養う。 |

## 道徳の時間

　道徳教育の要として，全教育活動における道徳教育と密接な関連を図りながら，計画的，発展的な指導によってこれを補充，深化，統合し，道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め，道徳的実践力を育成する。
　体験活動を生かした心に響く道徳教育の実施，家庭や地域の人々の協力による拓かれた道徳教育の充実，未来に向けて自らが課題に向けて実践しようとする人間の育成を目指し，その基盤となる道徳性を養う。道徳的な心情，判断力，意欲・態度の向上を図り，道徳的実践力を育成する。

## 特別活動における道徳教育

・学級活動，児童会活動，クラブ活動，学校行事で「望ましい集団活動」を展開し，豊かな学校生活を築くとともに，公共の精神を養い，社会性を育成する。
・よりよい学級や学校の生活，人間関係を築く活動に取り組み，その活動から道徳的価値が実感できるようにする。

## 総合的な学習の時間における道徳教育

・自分自身の力で新しい課題に対応していこうとする自立心を育成する。
・進んで人とかかわり，協力して課題に取り組む態度を身に付ける。
・福祉の学習を通して，思いやりの態度を身に付ける。

## 外国語活動における道徳教育

・外国語を使ったコミュニケーションを体験する中で，外国と日本の文化の違いに気付くことにより，我が国の伝統や文化を尊重する態度を育てる。
・外国語を通じて，他者に対して自分の思いを伝えようとする態度を養う。

## 指導体制・学校間の連携

・ゲストティーチャー等による指導の工夫
・人材バンクの整備
・幼稚園との交流，中学校との連携

## 生徒指導・日常実践活動

　基本的な生活習慣の形成を中心とした実践的態度を養う。（朝の会・帰りの会・掃除の時間・給食の時間など）

## 学習環境の充実・整備

道徳的な雰囲気
・道徳コーナー，にしっこひろば
・学校図書館の整備，副読本・読み物資料の充実